



ひなどり

園だより 2月号
平成30年1月31日
新潟市立新津第三幼稚園

子どもに苦勞させることで、分かることがある

園長 間嶋 哲

今年に入って大雪に見舞われた翌日、餅つき大会がありました。様々なお手伝いをさせていただきました年長組の保護者の皆様には、感謝の気持ちで一杯です。お餅はもちろんのこと、心を込めて作ってくださった豚汁の味は、格別でした。

お腹いっぱいになった後、年長組の皆さんは、親子で体を動かしておられました。そんな微笑ましい様子を見ながら、私は、写真屋さんと、ある想いを共有していました。

ちょうど雪が小休止した後での陽射しであったので、その温かさを感じました。そして、普段何気なく過ごしているものの、太陽の大切さや、雪も含めた自然の偉大な力を感じました。明らかにドカ雪は、私たちの生活に支障があり、「もうやめてくれ」という気分させます。しかし、そういう辛い経験をしたからこそ、太陽が出たときのありがたさも実感できるように感じます。私事ですが、若い頃、南の島へ旅行に出掛けたことがありましたが、そこでは常に晴れていて、気温は常に30℃未満。はじめのうちこそ、「ここは天国だ」と感じたものの、いつも晴ればかりが続くと、たった数日で飽きてくるのです。こういう気持ちを持つことが、人間（いえ、私自身ですね）の我が儘なところだと思います。

日本には、ご存じのとおり四季があります。寒いからこそ暖かさにあこがれ、暑かったら暑かったで、涼しさを求めます。今ある状況が必ずしも快適ではないからこそ、快適なものがやがて訪れたとき、そのありがたさを心から感じるように思います。快適にしようと、いろいろと考えるからこそ、様々な知恵も生まれるのかもしれない。科学技術の発展も、案外、このようなところからスタートするのかもしれない。

ところで…。皆さんは、あえて子どもに苦勞をさせていますか。様々な苦勞のさせ方はあるのですが、具体的に分かりやすいことが、おうちのお手伝いです。たとえ3歳の子どもであっても、3歳なりにできるお手伝いは、あるように思います。そのときは当然少し苦勞もするでしょうが、十分な成果が出なかったとしても、やってみること自体に価値があるのです。

さらには、おうちの方から「みんなのために、本当によくがんばってくれたねえ」と心から褒めてもらうことで、「みんなのために頑張った！」という純粋な達成感を持つのです。難しい言葉でいうと、自己肯定感が高まっていくのです。自分自身が苦勞したからこそ分かる、家族のありがたさという感情も生じてくるような気がしてなりません。

ぜひ、今日から、あえて苦勞をさせてみませんか。

